

## タバコと口腔ガン

現在、タバコを吸う人が次第に少なくなっています。日本でも長期的に見ると、喫煙総人口は一時期を除きゆるやかに減少しています。しかし、「国民栄養の現状」(2000 年国民栄養調査結果、厚生労働省)によると、成人の喫煙率は男性で 45.9%、女性で 9.9%と、先進諸国の中では非常に高い率を示しています。特に女性の喫煙率は、40 歳代以下は増加傾向にあり、20 歳代(喫煙率 16.1%)では、この 10 年余りで倍増となっているのは心配です。

タバコはさまざまなガンの原因になり、とくに口腔ガン、食管ガン、咽頭ガン、そして肺ガンによる死亡危険度が大変高くなります。その中で口腔ガンは、喫煙率に比例するように男性が女性の 3 ~ 4 倍も多くかかります。

口腔ガンの中で最も多く見られるのが、舌ガン(62.9%)で、次が口腔底ガン(11.9%)になっています。そのほか、歯肉や口蓋、口峽部、唾液腺、頬粘膜などにもガンが発症します。口腔ガンは、潰瘍や細胞の異常増殖、白色病変、粘膜の異状などの変化として表れますが、比較的見つけやすい所に発症するので、異常を感じたらすぐに歯科医師に見てもらいましょう。

